

## 専任教員教育研究業績

平成29年4月 12日

氏名	ふりがな	所属学科	職 位	性別
宮川 萬寿美	みやかわ ますみ	保育学科	学科長 教授・准教授・助教	男・♀
担 当 科 目 名			学 内 委 員 会 等 (委員長)	
保育課程論 ・ 保育内容総論 I・II 保育原理 ボランティア活動 施設実習			乳幼児研究所 所長	
学 歴				
和暦 (西暦) 年 月	事 項			学位
S52 (1977) 年 3 月	お茶の水女子大学 家政学部 児童学科 卒業			
S54 (1979) 年 3 月	お茶の水女子大学大学 大学院 家政学研究科 児童学専攻修士課程修了			家政学修士
教 育 歴 ・ 職 歴				
名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容		
市町村の乳幼児健診の発達相談・子育て相談	平成 13 年 5 月～22 年 3 月	箱根町・山北町・松田町・大磯町などの 乳幼児健診・親子教室における子育て相談・子どもの発達相談。		
箱根町保育巡回相談員	平成 14 年 10 月～現在に至る	保育園・幼稚園・幼児学園に巡回相談を行い、保育内容や子どもへのかかわり方、集団活動・環境構成への助言等		
箱根の森小学校心の相談員	平成 20 年 4 月～22 年 3 月	教育相談		
洗足学園短期大学 (非常勤講師)	平成 16 年 4 月～21 年 3 月	カウンセリング論・家族援助論		
昭和女子大学 (非常勤講師)	平成 21 年 4 月～22 年 3 月	保育内容総論・乳児保育		
聖セシリア女子短期大学 (非常勤講師)	平成 21 年 4 月～22 年 3 月	保育内容「人間関係 I・II」		
蒲田保育専門学校 (非常勤講師)	平成 21 年 4 月～21 年 3 月	保育内容・言葉		
所 属 学 会 等				
名 称	活動期間	活動内容 (役職等の活動を含む)		
日本関係学会	昭和 52 年～	H21 年より運営委員・研修委員 第 30 回 (H21) 31 回 (H22) 大会実行委員 H26・27 大会実行委員 H26.27 大会にて口頭発表		
日本発達心理学会	平成 13 年～	大会等に参加 H22 大会自主シンポジウム話題提供		
日本臨床発達心理士会	平成 14 年～	大会・研修会に参加 H18 第 2 回大会実践研究発表		
日本 LD 学会	平成 16 年～	大会・研修会・資格更新研修会に参加		
日本保育学会	平成 17 年～	H17/18/19/20/21/22/23 研究発表 (口頭およびポスター)		
日本人間関係学会	平成 21 年～	H21/22/23/24 研究発表 (口頭)		
日本心理劇学会	平成 22 年～	H28 年度第 22 回全国大会運営委員		
社 会 活 動 等				
名 称	活動期間	活 動 内 容		
幼稚園園内研究会 講師	平成 13 年～	小田原市公立幼稚園等での園内研究会の講師		
湘南心理研究会 コスモスの会	平成 13 年～	神奈川県西湘地区の子育てや子どもの発達支援にかかわる専門職の勉強会 H16 より世話人会役員		
発達支援研究所 MANA	平成 21 年 9 月～	研究員として発達障害を持つお子さんや家族とともに、よりよい生き方・支援に関して研究・実践		
小田原市 子ども・子育て会議委員	平成 24 年 4 月～ 現在にいたる	委員長		
社会福祉法人鎌倉すこやか会保育園みつばち	平成 26 年 9 月～	監査		

JCOM 小田原審議会		H28 年度		副委員長	
担当教科目に関する資格・免許等					
名称		取得年月		取得機関	
小学校教諭 1級普通免許		昭和 52 年 3 月		東京都教育委員会 1513 号 (専修免許)	
幼稚園教諭 1級普通免許		昭和 52 年 3 月		東京都教育委員会 625 号 (専修免許)	
臨床発達心理士		平成 15 年 3 月		学会連合資格「臨床発達心理士」認定運営機構 第 00297 号 平成 25 年 2 回目の更新	
特別支援教育士		平成 20 年 3 月		特別支援教育士資格認定協会・LD 学会 08-057 平成 25 年更新	
研究実績に関する事項					
代表的な著書、論文等の名称		単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) みんなで支える・わたしが輝く「子育て支援広場」		共著	平成 24 年 3 月	小田原女子短期大学保育学科	第 3 章 たくさん遊んで、ぐんぐん育ての項。2 歳・3 歳の子どもの発達の特性と遊び p25～p32
保育・教職実践演習-保育者に求められる保育実践力-		共著	平成 25 年 2 月	建帛社	実践研究事例・幼保と小学校との連携の事例 (P89-P92)
生活事例からはしめる-保育内容総論-		編著者	平成 26 年 3 月	青踏社	第 4 章 子どもの生活と保育 (P47-64) 第 5 章 子どもの発達と保育 (P78-84) 第 6 章 遊びによる総合的保育の展開 (P85-87) 第 7 章 保育における計画の重要性 (P103-114) 第 8 章 保育の多様な展開 (P115-124)
保育・教育課程総論		共著	平成 26 年 3 月	大学図書出版	第 1 4 章 幼稚園指導要録・保育所児童保育要録 P147-P156
生活事例からは始める「造形表現」		編著者	平成 27 年 4 月	青踏社	II 応用編 (P90-112) 第 1 章 保育内容としての造形表現 第 2 章 保育現場での制作活動の実際 第 3 章 制作を主活動とする指導計画
生活事例から始める保育の心理学		編著者	平成 27 年 4 月	青踏社	II 実践編 (P112-126) 第 1 章 生活や遊びを通じた学び 第 2 章 子どもの発達と保育実践
生活事例から始める保育原理		編著者	H27 年 4 月 H28 年 4 月改訂	青踏社	保育の方法・こどもの発達と保育・子育て支援に関する章を担当
(その他) 1、保育現場の発達支援-集団での「表現遊び」を通じての事例研究-		単著	平成 20 年 6 月	日本関係学会第 30 回大会 (口頭発表。関係学研究に掲載)	保育の場での発達支援は、保育者に成立するその子の困った行動に焦点を当てるのではなく、関係状況にあらわれてくる課題と捉え、どのような保育を展開するとよいか表現遊び「ピーターパン」の劇を通じて考察した
2、心理臨床的な諸問題のある子どもへの支援-幼稚園・保育所における実践から-(査読つき)		連名・発表者	平成 20 年 8 月	臨床発達心理士全国大会発表 第 4 回・論文集	発達に困難を持つ子どもに関して、専門家がどのように役割分担して、連携しているのかを、タイプ別に事例研究した。各機関の資源をおたがいに知ることの重要性が示唆された

<p>3、遊びの発展とともに広がる人間関係を基盤とした個別支援の深まり</p> <p>4、幼保から小への学びの違いを乗り越えるには—読みの力を育てる保育環境の工夫—</p> <p>5、幼児の人間関係力(3)——人との関わりの実践知を探る—“誘う”をてがかりに</p> <p>6、地域の祭りをきっかけとした保育内容——地域文化の継承と創造——</p> <p>7、発達臨床における子どもの自己のありように関する基礎的検討—親面接による質的研究—</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>単著</p>	<p>平成 21 年 10 月</p> <p>平成 23 年 3 月</p> <p>平成 25 年 11 月</p> <p>平成 26 年 9 月</p> <p>平成 27 年 6 月</p>	<p>日本人間関係学会 第 17 回 (文教大学)</p> <p>小田原女子短期大学研究紀要第 41 号 (研究ノート)</p> <p>日本人間関係学会 第 21 回大会 (東京理科大学)</p> <p>保育士養成協議会 研究大会</p> <p>日本関係学会 第 37 回大会 (東京薬科大学 千代田キャンパス) 口頭発表 研究誌に掲載</p>	<p>友だちとコミュニケーションが取りにくい子どもが保育者との好きな物を媒介とした活動を通じ、友だちとのごっこ遊びに参加し、役割をとって遊びこんだ事例の研究</p> <p>幼少の接続期に文字への興味や関心を持つ子どもは多いが、今まで「いつの間にか読めていた・書けていた」子とまった興味のない子どもがいるなど、非常に個人差のある子どもの実態がある。読む力の差が、就学後の生活への適応に重要な意味をもつと考えられた。幼稚園や保育所など就学前教育においては学習のレディネスを意識した意図的な環境構成をし、見通しを持って「読む・書く力」を保育計画に入れ込むことで、より豊かな経験につながるのではないかと考えられた。74—81 頁 (総 81 頁)</p> <p>幼稚園の生活の中で、幼児の「人と関わる力」に意味があるととらえられたエピソードを「誘う行為」に焦点をあて、手続きを踏みながら仲間関係を広げていく子どもの行動についての考察した (P17-18)</p> <p>保育園で行った「獅子舞プロジェクト」の保育展開や地域の祭りを取り入れた保育内容に関して分析し、地域の文化を継承していく保育園の役割に関して考察した。</p> <p>発達に困難をもつ児・者の自己理解に関する従来の研究は、対象者が言語表現のできることが必要であり、言語力に課題を持つ場合は研究対象となりにくい。本研究では親が捉えた子どもの有り様を話してもらう中で、子どもがどのように自己を捉えていたのかを探っていく方法を試み、自己の有り様理解のカテゴリー化を試みた。</p>
<p>その他 (表彰等)</p>				